

お口爽やかですか

テーマ 喫煙と歯周病と「かかりつけ歯科医」

歯周病と喫煙は深いかわりを持っています

抜歯原因の4割以上である歯周病の大きな原因は、歯垢と歯石です。

さらに、歯周病と喫煙は深いかわりを持っています。喫煙者では歯周ポケットの深い部位が多く、歯を支えている骨の吸収が大きく、ことに高齢者ではこの傾向が顕著です。歯周病における喫煙者は、非喫煙者と比較して、リスクが約2〜9倍大きいことが明らかにされています。

元喫煙者のリスクをみると、その値はおおむね2倍と、現在喫煙している人のリスクより低く、禁煙すると歯周病のリスクは低下することが示されています。

また、長期間の喫煙は歯やその周囲に、黒褐色のタールなどの汚れを付着させます。歯が着色することはもちろん、ヤニがつくと歯の表面がザラつき、歯周病の原因である歯垢・歯石を

付きやすくします。

ニコチンなどの物質は、血液の循環機能に障害を引き起こし、歯肉への酸素供給量を少なくします。このため歯肉を低栄養状態に陥らせたり、細菌を殺す白血球の機能を著しく低下させることにより、免疫機能を低くしたり、歯肉の炎症や治療を受けた部分の治り具合が悪くなることなども知られています。

歯周病を防ぐには「かかりつけ歯科医」が必要

多くの人は歯科医院を選ぶとき、近くにある、待ち時間が短いなどの「かかりやすさ」や、自分の希望を良く聞いてくれる、治療内容を説明してくれるなどの「相談しやすさ」を主な目安としていくようです。

ところで、かかりつけ歯科医を持つ意義は何かとい

うと、一つ目は予防から治療まで、あるいは病気や障害になっても往診も含めて「幅広い対応」をしてもらえることです。

二つ目は、今後も「継続して診療」してもらえることです。それにより、従来からの治療の経緯をふまえた対応をしてもらえるだけでなく、将来についても体調に合わせて無理のない対応を考慮してくれることでしょうか。

そして最後に「専門的な治療の確保」ということ。

これは、かかりつけ歯科医自身

がある分野の専門である場合もありますし、自分の専門領域外であれば専門医や病院を責任を持って紹介してくれることを意味します。結果、患者さんは何でも安心してかかりつけ歯科医に相談することができます。

